



ロータリー:
変化をもたらす



Weekly Bulletin



2017~2018年度
RI会長
イアンH.S. ライスリー



RI 第2620地区
ガバナー
松村 友吉



2017~2018年度
静岡日本平RC会長
洞江 秀

静岡日本平ロータリークラブ週報 第2,214回例会 平成29.8.18

会長挨拶

洞江 秀 会長



先々週に続いて会長セレクトミュージックは平和をテーマに選びました。本日は、スペインのカタルーニャ地方の民謡である「鳥の歌」です。演奏しているのは、スペインが生んだチェロ奏者の世界的巨匠パブロ・カザルスさんです。このCD録音の演奏は録音状態が悪いですが、1961年にケネディ大統領に招待されたカザルスがホワイトハウスにおいて演奏したもので、歴史に残る演奏と言われているものです。国連本部においてカザルスが「鳥の歌」を紹介した名言があります。「鳥は空にいるときにピース、ピース、ピース(平和、平和、平和)と歌っている」。当時、カザルスの故郷カタルーニャ地方は、スペインの独裁政権による抑圧を受けており、鳥の鳴き声になぞらえて平和を訴えたものとして歴史的なスピーチと言われておます。

私が「鳥の歌」を知ったのは、そんな伝説的な逸話とは全く関係ない話でして、以前、TBS系テレビで五木寛之原作の「青春の門」がドラマ化され、そのオープニング主題曲に「鳥の歌」が流れていたのがきっかけです。毎週、この曲を聴きながら、悲しい旋律で始まりつつも、最後には希望の光に向かって祈るような美しいメロディに感動していました。先ほどのカザルスの逸話を含めてこの曲が平和を象徴する曲として好きになったのは、その何年も後のことでした。

話は変わりますが、先々週の例会で落語の話をした翌日に東京の寄席に行ってきました。池袋演芸場で柳家小三治師匠がトリをとるといので開演の1時間前に並んだのですが、満席で立ち見と言われてしまったので、鈴木演芸場に回って林家正蔵さん他の囃を聞いて大笑いをしてきました。数日後に小三治師匠が寄席でアルツハイマー病の疑いがあると告白したという新聞報道があったので、この先、寄席に出てくれるのか心配です。立ち見でも見ておけば良かったと後悔しています。

幹事報告

望月 由美 幹事

1. 本日の例会は、小島会員による新入会員卓話です。
 2. 次週8月25日は、会員増強フォーラムです。
 3. 次々週9月1日はメンバータイムです。
- 本日「九州北部豪雨」への支援募金をお願い致します。

お客様紹介

坪井 志のぶ 会員

村松 重治 様(静様岡東RC)
以上1名のお客様です。

委員会報告

蒔田 真人 創立45周年記念事業実行委員長
創立45周年記念誌発刊の報告

会員のお祝い

誕生日



野上 智徳 会員
(8月21日生)

ロータリーソング

坪井 志のぶ 会員

四つのテスト

会長セレクトミュージック

「鳥の歌」 ホワイトハウス・コンサート
パブロ・カザルス

出席報告

坪井 志のぶ 会員

回	月・日	会員数	出席計算 会員数	出席 会員数	出席率	メイク アップ	出席+ メイクアップ	確定 出席率	完 欠
前々回	7/28	43名	38名	29名	76.31%	4	33	86.84%	5
本日	8/18	43名	43名	36名	83.72%	-	-	-	-

2017年8月22日までのホームページ閲覧総回数:30062回

- 池上 直子 会員 市野 桂子 会員
記念誌が完成しました。
会員のみなさま、ご協力ありがとうございました!!
- 長橋 敬一郎 会員
45周年記念誌ができました。
池上さん、市野さんがデザイン・編集し、当社で印刷・製本させて頂きました。蒔田実行委員長はじめ記念誌部会の皆さまご苦労さまでした。素晴らしい記念誌ができました。
- 辻村 宜孝 会員
創立45周年記念事業実行委員会記念誌部会の皆様、大変立派な記念誌有難うございました。
- 中村 憲司 会員
8月5日に静岡中央RCと合同のゴルフコンペに参加しました。静岡日本平RCの名誉にかけて戦いました。前半39、後半38のグロス77で廻って、ベスグロを頂きました。最終ホールのイーグルは最高に気持ち良かったです。

- 竹田 昭男 会員
SBS村松常務、ようこそ!超DSフェスタしずおか開催、ありがとうございます。町中が混みはじめています。
- 中戸川 豊 会員
久しぶりに出席できました。メーキャップはしています。
- 野上 智徳 会員
8月21日でたしか55才です。今後もよろしくお願い致します。
- 鈴木 正久 会員
小島万記さんの卓話に期待して、空手の武勇伝も楽しみです。
- 吉岡 章 会員
小島さん、卓話楽しみにしています。池上さん、市野さん、記念誌ありがとうございます。



新 会 員 卓 話

「空手と仕事と家族」

明治安田生命保険会社
小島 万記 会員

まずは簡単に自己紹介からさせていただきます。

私は昭和53年10月30日に現在の清水区に生まれました。父は旧清水市生まれ、母は北海道出身です。空手を始め今年34年目となります。なぜ、そもそも『空手』なのかと言いますと、父が就職して間もなく、会社の先輩に『空手を教えてやる』と言われたのが、切っ掛けで、それから空手の魅力に取りつかれ現在に至るわけです。因みに母が空手を始めたのは3人子供を生んだ後…。師範である父は公認五段、母は公認三段。私はいつの間にか父を抜いてしまい、県内の女子では唯一の六段を取得しています。

5歳から空手を始めたわけですが、子供のころは空手が大嫌いでした。遊びには行かれない、痛い、苦しい…何が楽しくて空手をやっているのか分からない状態でした。が、『負けず嫌い』と言う、私の性格が功を奏し、『勝つ』と言うことが中学生くらいになると、楽しくなってきたのです。そして、高校進学の時です。幾つかの選択肢はありましたが、どうせやるなら強いところでやりたい、と言うことで当時も今も日本一である御殿場西高校に行くことに決めました。15歳で家を出たと言うことになります。高校時代の一番の思い出は高校2年生の時にインターハイチャンピオンになったことです。当時は今のように頻繁に全国大会の開催が無かったため、私にとっては初めての全国大会優勝となるため、一部始終を鮮明に覚えています。…ただ残念なことがあったのです。高校3年間でのメインイベントと言えば『修学旅行』、しかも私たちの年からサンフランシスコに行くことが決まっていた。が、高校生代表として参加した全日本選手権が修学旅行期間のド真ん中だったため、泣く泣く諦めたのです。

そして、大学進学の時もどうせやるなら…と言うことで、日本一だった大阪にある近畿大学に進学することとなりました。ここでは早々に(ある意味)事件が起きてしまったのです。なんと、1年生から4年生の中の大会で、一年生の時に個人組手の部で優勝をしてしまったのです…。チャレンジ精神で臨んだ大会だったのですが、この大会を機に追われる立場になってしまったわけです。この年から国体の種目に初めて成年女子の部が出来、大会開催地が大阪だったこともあり、私はかなり期待されていた選手でした。が、大会当日の5日前の練習中に左足親指が取れるという、大事故をしてしまったのです。もちろん大会は欠場…しかし、これまでプレッシャーの中にいた私の心のどこかに、『もう試合に出なくてもいいんだ…』と言う安心感があったのです。それから5か月後、けがから完全復帰するところのことです。『安心感』が『不安』に変わってしまったのです。私は居ても立っても居られなくなり、まさしく夜逃げ。同期に『ごめん』と書き残し、一晩で一切の荷物を引き払って別のアパートに逃げたのです。真っ暗い部屋の中で、何も考えられなかったのを覚えています。それから3日程経った頃、親から連絡が入り『もう辞めてもいいから…』と一言言われたのでした。何となく今まで空手をやらなければいけない、という気持ちが強かった私でしたが、その一言で、肩の荷が下りたと言うか、すごく楽な気持ちになったのでした。その一言のお陰もあり、私は大学に戻り空手生活を続けることが出来たのでした。学生時代、色々な経験をしましたが、あの時に空手を辞めてしまっていたらきっと今の自分はなかったように思います。

社会人になってからは、気持ちの面でも環境も一旦区切りが付き、引退をするつもりでいました。が卒業後3年目に地元静岡国体があるとのことで、当然辞められるわけもなく、当時派遣先の『清水市役所空手道部』の選手として各大会に出させていただき、卒業2年目には日本で最大の大会『全日本選手権大会』で優勝することが出来たのです。この戦績は後にも先にも男女合わせても県内私しかおらず、まだ破られていない記録です。

さて、なぜ私が前職をやめることになったかと言いますと、何となく代わり映えのない毎日がつまらなくなってしまう…と言うのが、理由の一つです。なぜ保険会社なのか…私自身もかなりの疑問なのですが、今まで全く『保険』に無関心だったのですが、ある日税金、社会制度の話に興味を持ち、『私の知らない世界』に引きずり込まれたのです。世間一般的には嫌われる職業かもしれませんが、人の役に立てる、また今の会社に入ったことで、出会いの場が広がり、私自身随分成長させていただいています。

空手があるから、仕事にも繋がり、仕事があるから生活が出来、家族の協力があるから空手や仕事が出来…これからも私を取り巻く環境すべてに感謝し、常に向上心を忘れず、前向きに頑張っていこうと思います。ご清聴ありがとうございました。